

メッセージにおける待遇表現の数量化

5 F - 6

堀井統之 加藤恒昭 大山芳史
NTT情報通信処理研究所

1. はじめに

日常の会話において、我々は状況に応じて尊敬語、謙讓語、丁寧語などの待遇表現を使い分けている。ここで用いられている規則を明らかにし、与えられた待遇レベル(丁寧さの度合)でどのような表現が適切であるかを決定できれば、計算機上で正しい待遇表現を生成することが可能となる。

本稿では、待遇表現が正しくかつ豊富に現れる電報文を対象とした待遇表現の数量化による分類法と、この結果を用いた待遇表現の生成方式を提案する。

2. 主用言文節に現れる待遇表現の多様性

文全体の待遇レベルを決定する要因は様々であると考えられる。我々はその要因を把握するために、次のような調査を行なった(調査1)。

『電報文の中に盛り込む内容(「二人の幸せを祈る」など20文)と電報の送り先(上司、親友など10種類)を与え、その内容をそれぞれの送り先に送るときに用いる表現を記入する。(男女4人ずつ)』この結果、すべてのインフォーマントが、丁寧さを変えるために、おもに主用言文節を変えていることがわかった(図1)。これは、主用言文節が文全体の待遇レベルを決定する主要因になっていることを示唆している。

したがって、主用言文節に現れる待遇表現の待遇レベルにより、文全体の待遇レベルを近似できると考えられる。

書き換え対象文「二人の幸せを祈る」

送り先	書き換えられた文
会社の上司	お二人の幸せをお祈り申し上げます
会社の同期	お二人の幸せをお祈りいたします
年上の友人	お二人の幸せをお祈りします
年下の友人	お二人の幸せを祈ります
...

図1 送り先による表現の違い

3. データ収集と数量化方法

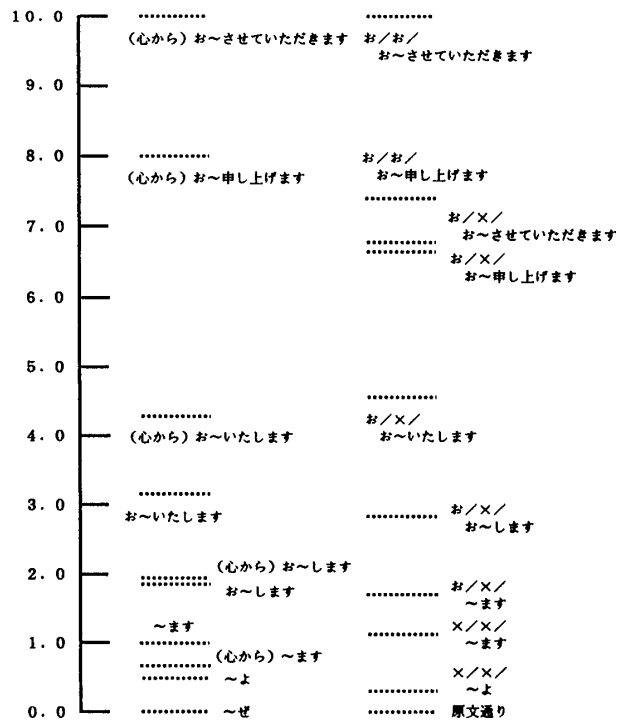
「丁寧さ」という主観的な値を客観的に数量化するためには、より多くのインフォーマントによるデータを必要とする。そこで調査1の結果をもとに、以下のような調査を行なった(調査2)。

『調査1と同様の調査を、「表現を記入する」代わりに、与えられたいくつかの表現から最適と思われるものを選択するという形式で行なう。(約300人、男女ほぼ同数)』

インフォーマントに与えた表現の選択肢は、調査1で収集された表現から、各内容ごとに10個ずつ選んで作成したものである。この時、前述の観点から、主用言文節のバラエティーを重視し、比較的よく使われているものを中心に選んだが、いくつかの内容については主用言以外の文節(単語)で表現が異なるものも含めた。

調査2で得られたデータから、双対尺度法[2][3]を用いて各表現の数量化を行なう。この方法は、ある送り手に対してある表現を選んだインフォーマントの数に着目し、送り先と表現の相関が最も大きくなるように、これらを数直線上に配置するものである。つまり、待遇レベルの高いものほど数直線の右側に配置され、似た待遇レベルのものは近い位置に配置されることになる。ここでは、最も丁寧なものが10、最もぞんざいなものが0となるようにした。

図2にその数量化結果の一部を示す。この結果から、(1)の「心から」という副詞や(2)の名詞に付く接頭語「お」の有無よりも、主用言文節の表現が、待遇表現の使い分けの体系を構成していることがわかり、2.で述べた主用言文節の重要性が確認できた。



(1) 人生の門出を(心から)祝う。(2) 二人の幸せを祈る。
注) (2)において、「お/X/~」は「二人」に「お」が付き、「幸せ」には「お」が付かないことを表す。

図2 待遇表現の数量化結果

4. 主用言文節に着目した数量化

主用言文節のみから文全体の待遇レベルを決定するために、調査2で得られたデータを、副詞や名詞に付く接頭語の有無に関係なく、主用言文節に現れる待遇表現のみに着目して、統合した。その統合されたデータを用いて、3.と同様な方法で数量化を行なった。その主な結果が表1である。表1で数値が入っていないところは、その文の選択肢に該当する表現がなかったことを表す。

表1 謙譲語、丁寧語の体系

	文番号(1)	文番号(2)	文番号(3)
お～させていただきます	10.00	10.00	—
お～申し上げます	8.00	8.37	10.00
お～いたします	4.08	5.43	6.22
お～します	1.91	3.37	4.11
～ます	0.78	1.78	1.15

凡例) 表中の文番号は以下の通り。

- (1) 人生の門出を心から祝う。
- (2) 二人の幸せを祈る。
- (3) 新生活の門出を心から喜ぶ。

最初の数量化結果も同様であるが、これらの数値は、その絶対値には意味がなく、各表現間の相対的な関係に意味がある。したがって、表1の(1)、(2)における同一待遇表現の比較などは無意味である。しかし、同一文内における各表現の順位は各文共通であり、また各表現間の数値差も十分に大きい。

このことから、一般的に謙譲語、丁寧語としてまとめられている待遇表現は、

(丁寧さが大きい) お～させていただきます
お～申し上げます
お～いたします
お～します
↑↓
(丁寧さが小さい) ～ます

と分類できることがわかる。

また、期待を表す尊敬語に関しても、表2のような数量化結果が得られており、

(丁寧さが大きい) お～になってください
～(ら)れてください
お～ください
↑↓
(丁寧さが小さい) ～てください
という体系がみられる。

表2 期待を表す尊敬語の体系

	文番号(4)	文番号(5)	文番号(6)
お～になってください	10.00	10.00	—
～(ら)れてください	7.20	8.84	10.00
お～ください	5.10	6.73	5.90
～てください	3.03	3.36	3.49

凡例) 表中の文番号は以下の通り。

- (4) 笑顔で暮らせる家庭づくりにつとめてくれ。
- (5) 明るい家庭を築いてくれ。
- (6) 仲の良い夫婦になってくれ。

この数量化により、従来は尊敬語、謙譲語、丁寧語という分類しかされていなかった待遇表現を、その丁寧さの度合いに応じて分類することができた。

5. 待遇表現の生成方式

より自然な文を考えた場合、文中にひとたび文全体の待遇レベルに影響を与えるような表現が現れると、以後

もそれに見合ったレベルの表現が要求される[1]。これに反した文、たとえば、

若いお二人のご成婚を祝すよ。(→祝します)
という文は自然な文とはいえない。

このことから、文全体の待遇レベルが決まれば、文中の各表現もある程度規定できる。すなわち、各文節(単語)に現れる待遇表現がランク付けされていれば、図3で示すような待遇表現の体系をつくることができると考えられる。文全体の待遇レベルがaの時には、各文節(単語)ともそれに該当するレベルの表現を用いることによって自然な文が生成できる。

		主用言文節	体言文節
上 ↑ 待遇 レベル ↓ 下		お～させていただきます			
		お～申し上げます	「お」「ご」が付く		
		お～いたします			
		お～します			
		・ ・ ・			
	終助詞が付く	「お」「ご」が付かない			

図3 文全体の待遇レベルと待遇表現

待遇表現のランク付けであるが、主用言文節に現れる待遇表現については4.で示した。また、丁寧さを強める副詞や名詞に付く接頭語「お」「ご」については、オピニオンテストなどで文の自然さを失わないような境界を設定することができると考えられる。

したがって、図3のような待遇表現の体系を、尊敬語や謙譲語などという主用言文節の表現体系ごとにつくることにより、待遇表現の生成を行なうことができる。

6. おわりに

文の丁寧さを決定する主要因として主用言文節に着目し、そこに現れる待遇表現の数量化を行なった。これにより、さまざまな待遇表現を、その丁寧さの度合いに応じて分類することができた。また、文全体の丁寧さから待遇表現を生成する方法を提案した。

本稿では、電報文を対象として、相手と自分との関係が待遇表現にどのように影響するかを検討した。待遇表現に影響を与えるその他の要因として、発話が行なわれる場の雰囲気、話の目的、男女・年齢・職業などの違いを含めた個人差などが考えられる。これらの要因が具体的にどの程度の影響を与えるかは今後の研究課題であるが、本稿で用いた手法は、これらの影響を数量化する際にも用いることができ、それによって得られた結果から本稿と同様の生成方式が実現できると考えられる。

参考文献

- [1] 文化庁：日本語教育指導参考書2「待遇表現」、大蔵省印刷局、1971
- [2] 水谷静夫他：朝倉日本語新講座5「運用I」、朝倉書店、1983
- [3] 西里静彦：質的データの数量化、朝倉書店、1982